

もくじ

1	計画の趣旨	1
2	基本的な考え方	2
3	施設の概要	3
4	地域の概況	5
5	活用に向けた取組経過	10
6	活用に向けた地域の意向	11
7	活用基本方針	20

資料

1 計画の趣旨

文部科学省が平成 28 年 5 月に実施した「廃校施設活用実態調査」によると、平成 14 年度から平成 27 年度までの 14 年間で、全国の廃校数は 6,811 校となっています。廃校数は少子化による児童生徒数の減少などにより増加しており、毎年全国で、400～500 の学校が廃校となっています。

こうした廃校の約 88%では校舎、屋内運動場（体育館）などの建物が取り壊されずにそのまま現存し、うち約 30%程度では施設が活用されないままの状態にあります。人口減少、少子高齢化の進行により、今後も廃校が見込まれる中、廃校施設の有効活用が全国的な課題となっています。

一方、学校施設は地域にとってシンボリックな建物であるとともに、今後の地域活性化に活用できる貴重な資源とも捉えられており、施設の活用を通じて、地域コミュニティの機能の強化や再生、地域づくりや地域活性化が期待できることから、全国の廃校施設において施設の有効活用の取組が模索されています。

しかしながら、都市部においては資産性（又は活用性）が高い廃校に対して一定の施設活用が進んでいるものの、中山間地域などでは具体的な手法が確立されていないため、廃校活用がうまく進まない状況が見られます。

こうしたことから、人口減少や少子高齢化が進展する地域において、貴重な地域資源である廃校施設の有効活用が市区町村共通の課題となっています。

こうした全国的な動向と同様に、本市中辺路地域においても、児童生徒数の減少に伴って、平成 25 年 4 月に栗栖川小学校と二川小学校が統合して中辺路小学校となり、二川小学校は閉校となりました。しかしながら、小学校は地域住民の学びの場として地域との関わりが深く、地域のシンボリックな建物であることから、閉校後間もなく、その活用についての検討が始められました。本計画は、こうした検討やこれまでの議論などを踏まえつつ、旧二川小学校の活用に向けて、地域のニーズなどを把握するとともに、活用の基本的な考え方や方向性をまとめるものです。

2 基本的な考え方

本市では、「第2次田辺市総合計画」（平成29年7月）を策定し、「一人ひとりが大切にされ、幸せを実感できるまちづくり」を基本理念として、豊かな自然や歴史・文化などの地域資源や都市的機能など、本市の多様な地域の特性を生かしながら、まちづくりを進めていくこととしています。

山村地域においては、若年層の流出などにより過疎化が進み、集落活動の維持・継続が困難な状況が現れつつありますが、その一方で、人々の心を癒やす大自然とゆるやかな時間が流れる地域性は都市住民などの心を惹きつける魅力が詰まっています。そうしたことから、本市では、山村地域の維持と活性化に向けた取組を推進すると共に、移住希望者の住宅や生活などの相談対応をはじめ、地域情報の提供を行うほか、総合相談窓口を設置して移住者の受入れを進めています。

こうした状況の中で、廃校舎などの活用により、人々が集い、交流する機会などを確保し、生活サービスや地域活動の拠点づくりを進めることで、新たに集落再生機能をもたらす可能性を持っています。

一方、「田辺市公共施設等総合管理計画」（平成29年3月策定）では、厳しい財政状況を踏まえながら、行政サービスの維持向上や将来世代への配慮の視点を持ちつつ、計画的に施設の建替えや状況に応じた統廃合を進めていくこととしており、それとともに、公共施設などの適正な配置や効果的・効率的な運営方針を示しています。

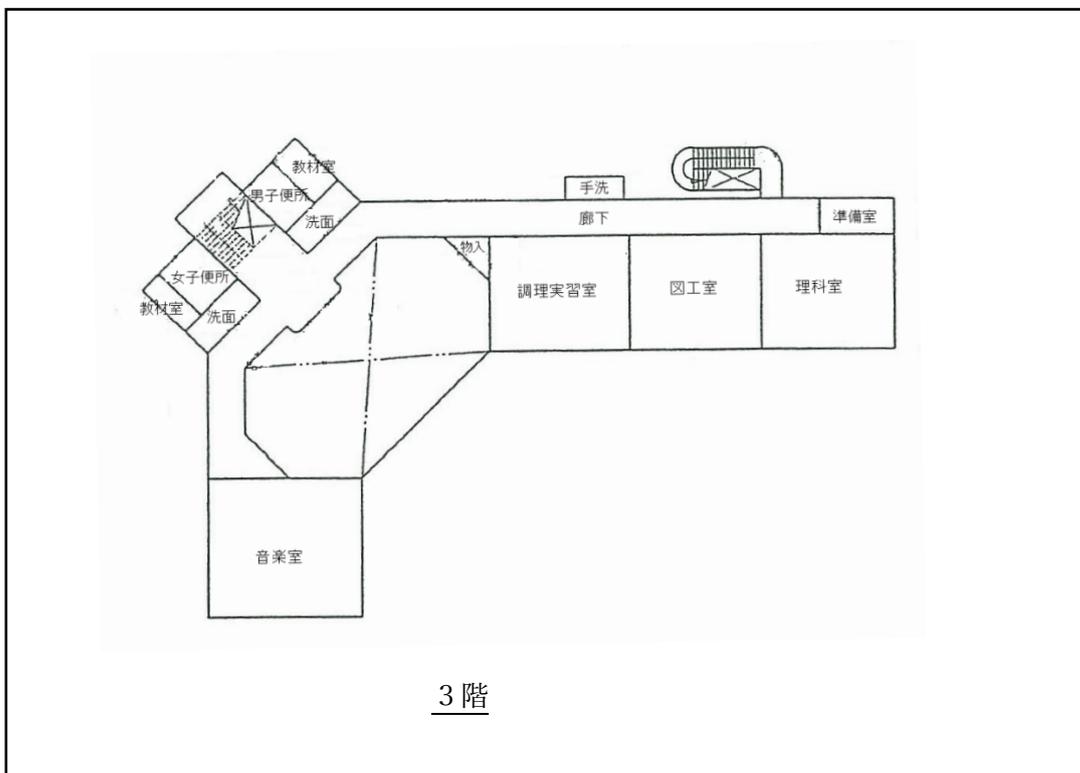
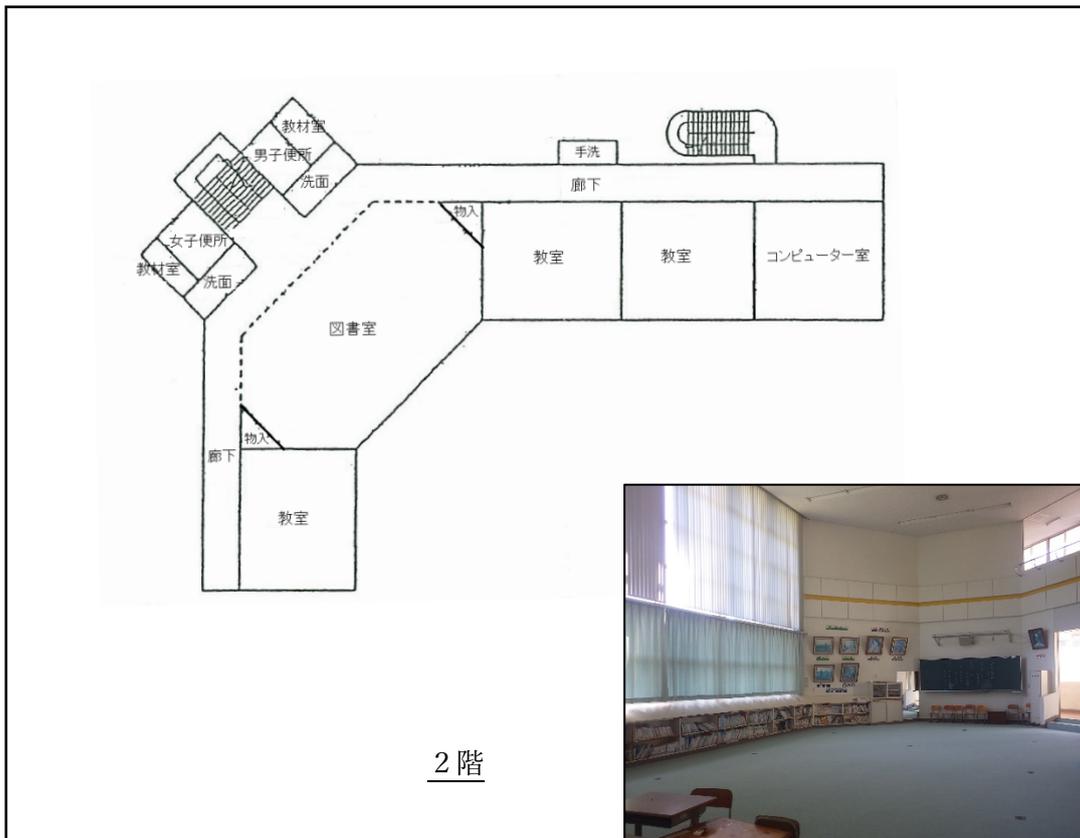
旧二川小学校の活用の方向性を定めるに当たっては、総合計画が目指すまちづくりを求めつつ、同時に、公共施設の管理のあり方との整合性を図りながら、少子高齢化・過疎化に伴う活力低下が危惧される山村地域の活性化に資するため、計画策定委員会を設置し、「田辺市旧二川小学校活用基本計画」を策定するものです。

3 施設の概要

所在地	田辺市中辺路町川合 1451
建築年度	昭和 58～59 年度（新耐震基準）
構造	鉄筋コンクリート造 3 階建
面積	教室など 1,674 m ² 、食堂 128 m ² （校舎合計 1,802 m ² ） 屋内体育館 680 m ² 、運動場 6,179 m ²
施設内容	普通教室 5、コンピューター室、図書室、音楽室、調理実習室、 図工室、理科室、食堂、職員室、会議室 2、校長室、 保健室 計 17 室

【施設見取図】





4 地域の概況

1) 人口の推移

本市の人口は全域的に減少傾向にあり、特に行政局管内の山村地域における減少率は高くなっています。平成17年を100とした指数(表1-1)で見ると、平成29年は田辺市全域で89であるのに対して、中辺路地域は76と大幅な減少となっています。また、中辺路地域内(表1-2)を見ると、栗栖川地域が76、二川地域が73、近野地域が81となっています。

表1-1 人口推移

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
実数 (人)	中辺路地域	3,753	3,676	3,560	3,454	3,349	3,291	3,246	3,186	3,129	3,046	2,986	2,913	2,864
	田辺地域	70,307	69,872	69,367	68,845	68,303	67,908	67,490	67,079	66,976	66,324	65,672	64,906	64,186
	龍神地域	4,477	4,383	4,306	4,238	4,162	4,107	3,985	3,878	3,763	3,665	3,559	3,440	3,351
	大塔地域	3,345	3,295	3,272	3,228	3,211	3,162	3,107	3,049	3,018	2,927	2,883	2,808	2,753
	本宮地域	3,785	3,749	3,654	3,534	3,512	3,470	3,363	3,283	3,231	3,154	3,068	2,945	2,892
	田辺市全域	85,667	84,975	84,159	83,299	82,537	81,938	81,191	80,475	80,117	79,116	78,168	77,012	76,046
指数	中辺路地域	100	98	95	92	89	88	86	85	83	81	80	78	76
	田辺地域	100	99	99	98	97	97	96	95	95	94	93	92	91
	龍神地域	100	98	96	95	93	92	89	87	84	82	79	77	75
	大塔地域	100	99	98	97	96	95	93	91	90	88	86	84	82
	本宮地域	100	99	97	93	93	92	89	87	85	83	81	78	76
	田辺市全域	100	99	98	97	96	96	95	94	94	92	91	90	89

出典：住民基本台帳人口資料

表1-2 中辺路地域内の人口推移

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
実数 (人)	栗栖川地域	2,070	2,023	1,952	1,900	1,851	1,823	1,789	1,755	1,720	1,668	1,637	1,602	1,571
	二川地域	909	896	863	833	800	779	781	757	749	723	703	671	666
	近野地域	774	757	745	721	698	689	676	674	660	655	646	640	627
	中辺路地域	3,753	3,676	3,560	3,454	3,349	3,291	3,246	3,186	3,129	3,046	2,986	2,913	2,864
	中辺路地域	100	98	94	92	89	88	86	85	83	81	79	77	76
指数	二川地域	100	99	95	92	88	86	86	83	82	80	77	74	73
	近野地域	100	98	96	93	90	89	87	85	85	83	83	81	81
	中辺路地域	100	98	95	92	89	88	86	85	83	81	80	78	76

出典：住民基本台帳人口資料

2) 15歳未満人口の推移

人口の減少に加え、年齢構成を見ると、山村地域での少子化はより大きく進行しています。平成17年を100とした指数(表2-1)で見ると、平成29年は田辺市全域で75であるのに対して、中辺路地域は59と大幅な減少となっています。

また、中辺路地域における保育園児(くりすがわ保育園、ちかの保育園)・小学生・中学生数の推移(表2-2)を見ると、同様に減少傾向にあります。

表 2-1 15 歳未満人口の推移

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
実数 (人)	中辺路地域	389	367	331	326	305	294	290	286	274	248	234	227	228
	田辺地域	10,337	10,158	9,919	9,672	9,513	9,354	9,174	8,980	8,903	8,667	8,473	8,277	8,013
	龍神地域	517	489	473	441	438	431	412	400	370	347	330	313	310
	大塔地域	498	469	460	462	463	440	428	411	401	368	359	346	328
	本宮地域	422	419	392	359	352	339	300	272	263	247	233	216	215
	田辺市全域	12,163	11,902	11,575	11,260	11,071	10,858	10,604	10,349	10,211	9,877	9,629	9,379	9,094
指数	中辺路地域	100	94	85	84	78	76	75	74	70	64	60	58	59
	田辺地域	100	98	96	94	92	90	89	87	86	84	82	80	78
	龍神地域	100	95	91	85	85	83	80	77	72	67	64	61	60
	大塔地域	100	94	92	93	93	88	86	83	81	74	72	69	66
	本宮地域	100	99	93	85	83	80	71	64	62	59	55	51	51
	田辺市全域	100	98	95	93	91	89	87	85	84	81	79	77	75

出典：住民基本台帳人口資料

表 2-2 中辺路地域における保育園児・小学生・中学生数の推移

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
保育園児	73	79	68	63	43	42	31	46	59	54	53	47	51
小学生	162	159	144	133	133	130	114	111	102	99	95	93	92
中学生	—	79	78	79	75	66	73	69	65	55	58	61	61

出典：子育て推進課、中辺路教育事務所調べ

3) 生産年齢人口（15 歳～64 歳）の推移

労働人口と言われる生産年齢人口は、特に山村地域ではその減少率が大きくなっています。平成 17 年を 100 とした指数（表 3）で見ると、平成 29 年は田辺市全域で 82 であるのに対して、中辺路地域は 69 と大幅な減少となっています。

表 3 生産年齢人口の推移

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
実数 (人)	中辺路地域	2,019	1,977	1,916	1,821	1,749	1,717	1,694	1,651	1,600	1,540	1,480	1,414	1,396
	田辺地域	10,337	10,158	9,919	9,672	9,513	9,354	9,174	8,980	8,903	8,667	8,473	8,277	8,013
	龍神地域	517	489	473	441	438	431	412	400	370	347	330	313	310
	大塔地域	498	469	460	462	463	440	428	411	401	368	359	346	328
	本宮地域	422	419	392	359	352	339	300	272	263	247	233	216	215
	田辺市全域	52,479	51,781	50,930	50,032	49,258	48,732	48,405	47,872	47,044	45,910	44,963	43,894	43,018
指数	中辺路地域	100	98	95	90	87	85	84	82	79	76	73	70	69
	田辺地域	100	98	96	94	92	90	89	87	86	84	82	80	78
	龍神地域	100	95	91	85	85	83	80	77	72	67	64	61	60
	大塔地域	100	94	92	93	93	88	86	83	81	74	72	69	66
	本宮地域	100	99	93	85	83	80	71	64	62	59	55	51	51
	田辺市全域	100	99	97	95	94	93	92	91	90	87	86	84	82

出典：住民基本台帳人口資料

4) 65 歳以上人口の推移

65 歳以上人口の推移（表 4-1）を見ると、田辺地域の高齢者が増加傾向にあり、それ以外の地域では減少傾向にあります。

高齢化率（表 4-2）は、平成 17 年と比較すると平成 29 年には着実に高くなっています。田辺市全域では 30%であるのに対し、中辺路地域では 41%となっており、山村地域の高齢化が進行しています。

表 4-1 65 歳以上人口の推移

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
実数 (人)	中辺路地域	1,345	1,332	1,313	1,307	1,295	1,280	1,262	1,249	1,255	1,258	1,272	1,240
	田辺地域	15,505	15,793	16,196	16,590	16,834	17,043	17,007	17,175	17,802	18,281	18,551	19,025
	龍神地域	1,590	1,578	1,561	1,562	1,551	1,528	1,478	1,433	1,403	1,391	1,380	1,358
	大塔地域	1,062	1,053	1,053	1,040	1,025	1,018	997	986	987	980	981	976
	本宮地域	1,523	1,536	1,531	1,508	1,503	1,479	1,438	1,411	1,415	1,419	1,392	1,345
	田辺市全域	21,025	21,292	21,654	22,007	22,208	22,348	22,182	22,254	22,862	23,329	23,576	23,739
指数	中辺路地域	100	99	98	97	96	95	94	93	93	94	95	92
	田辺地域	100	102	104	107	109	110	110	111	115	118	120	123
	龍神地域	100	99	98	98	98	96	93	90	88	87	87	85
	大塔地域	100	99	99	98	97	96	94	93	93	92	92	91
	本宮地域	100	101	101	99	99	97	94	93	93	93	91	88
	田辺市全域	100	101	103	105	106	106	106	106	109	111	112	114

出典：住民基本台帳人口資料

表 4-2 高齢化率の推移

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
割合 (%)	中辺路地域	36	36	37	38	39	39	39	40	41	42	42	41
	田辺地域	22	23	23	24	25	25	26	27	28	28	28	29
	龍神地域	36	36	36	37	37	37	37	37	37	38	38	37
	大塔地域	32	32	32	32	32	32	32	32	33	34	34	33
	本宮地域	40	41	42	43	43	43	43	43	44	45	44	43
	田辺市全域	25	25	26	26	27	27	27	28	29	30	30	30

出典：住民基本台帳人口資料

5) 中辺路地域における移住者数の推移

近年の移住者数の推移（表 5）を見ると、平成 20 年には移住者はいませんでした。平成 21 年度以降は徐々に増加し、平成 28 年には 7 世帯、16 人の移住が実現し、平成 21～28 年度の合計で、32 世帯、66 人の移住実績となっています。また、緑の雇用住宅入居者数の推移を見ると、7～8 人が毎年入居しています。

表 5 中辺路地域における移住者数の推移

単位：世帯、人

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
世帯数	0	3	2	6	1	4	3	6	7
人数	0	7	4	9	1	7	8	14	16

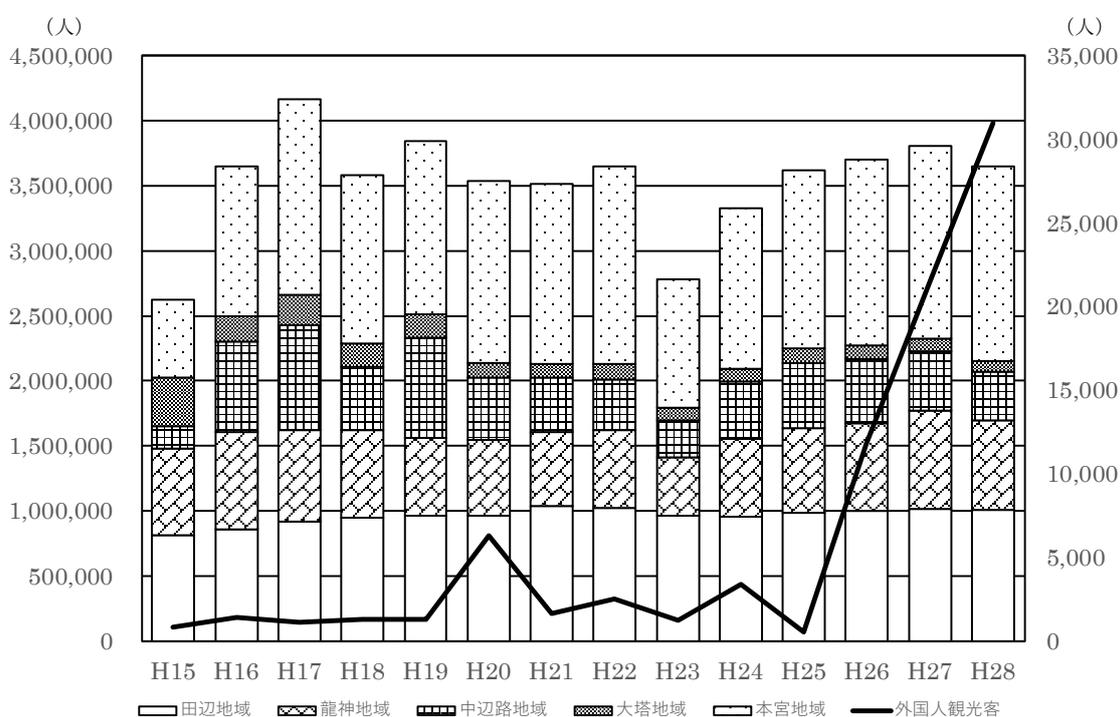
出典：農林水産部森林局調べ

6) 観光の動向

(1) 田辺市全域の観光客の推移

平成 16 年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録され、観光客数は大きく増加しました。その後、平成 23 年の台風 12 号災害による減少はあるものの、年間約 350 万人程度で推移しています。一方、外国人観光客は平成 21 年の 1,647 人から平成 28 年には 30,958 人と大幅に伸びています。

表 6-1 田辺市全域における観光客数（外国人観光客）の推移



出典：「観光客動態調査報告書」和歌山県

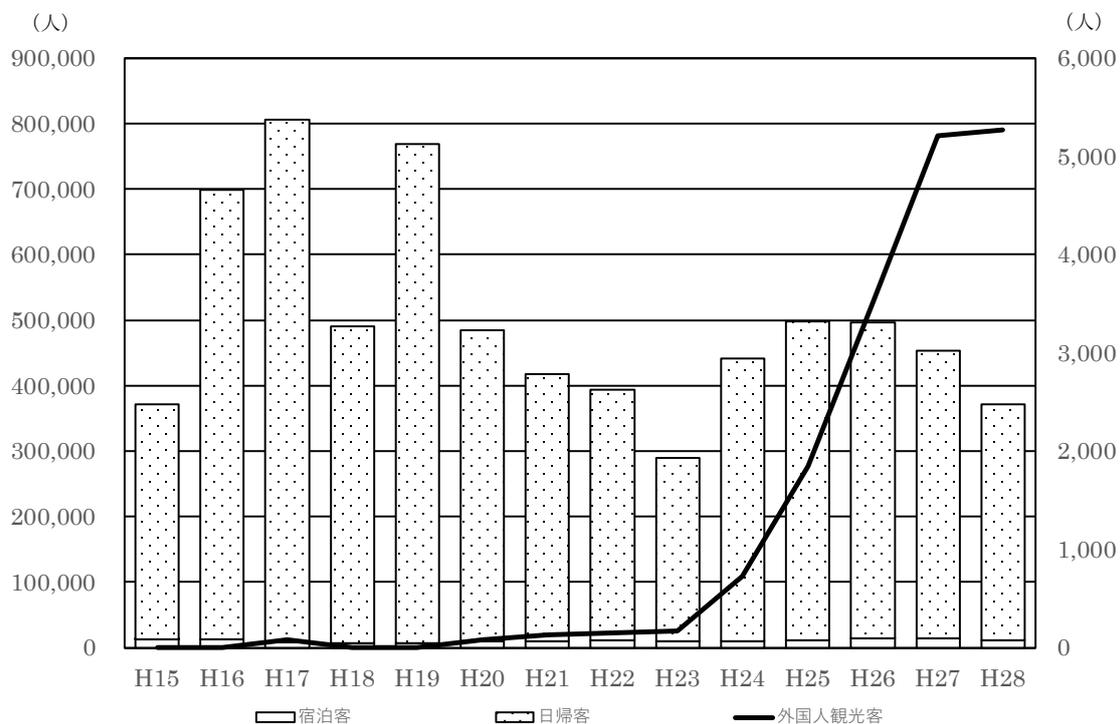
(2) 中辺路地域における観光客の推移

中辺路地域における観光客の推移を見ると、日帰客が大半を占めており、平成 21 年は 417,859 人、平成 28 年は 371,073 人となっています。田辺市全域と同様に、外国人観光客が大幅に伸びており、平成 21 年の 129 人から平成 28 年には 5,272 人となっています。

熊野古道館来館者数の推移を見ると、全体数は減少傾向にある中、平成 23 年以降、外国人は増加傾向にあります。

ホテル・旅館・民宿の施設数と収容人数（平成 28 年）を見ると、田辺地域と本宮地域に集中しています。

表 6-2 中辺路地域における観光客数（外国人観光客）の推移



出典：「観光客動態調査報告書」和歌山県

表 6-3 熊野古道館来館者数の推移

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
利用客 (人)	41,298	35,134	25,053	32,233	32,540	35,270	25,935	21,589
うち外国人客 (人)	151	170	129	616	895	1,674	2,849	3,739

出典：中辺路町観光協会調べ

表 6-4 中辺路地域におけるホテル・旅館・民宿の施設数と収容人数（平成 28 年）

		ホテル	旅館	民宿	合計
中辺路地域	施設数		4	8	12
	収容人数		120	213	333
田辺地域	施設数	13	3	10	26
	収容人数	553	94	137	784
龍神地域	施設数		8	5	13
	収容人数		278	101	379
大塔地域	施設数		1	2	3
	収容人数		50	17	67
本宮地域	施設数		12	23	35
	収容人数		1,242	374	1,616

出典：「観光客動態調査報告書」和歌山県

5 活用に向けた取組経過

1) 二川小学校の変遷と活用への取組

二川小学校は、明治 10 年 8 月に高原の栖雲寺の一角に高原小学校として開校し、昭和 9 年に現在地に移転、児童数の減少などを背景に昭和 46 年に中川小学校、内井川小学校と統合、47 年に芦尾小学校、49 年に兵生分校との統合を経て、長い歴史の中で 4,000 人を超える卒業生を世に送りだしてきました。(現施設については、3 頁の「施設の概要」を参照)

この間、先人達の努力に支えられながら豊かな人材を育む場として地域とともに歩んできましたが、平成 25 年 4 月に中辺路小学校として統合したことで、その役割を終えて閉校となりました。この閉校により、地域の衰退を危惧する思いが高まる中、平成 25 年 6 月に校区の区長の方々をはじめ、中辺路行政局長、中辺路教育事務所長によって「旧二川小学校活用検討委員会」がつけられ、主として福祉施設としての活用について先進地の視察などを行いながら研究が進められました。

その後、平成 28 年には二川小学校卒業生の保護者などが中心となり、新たな組織となる「旧二川小学校活用委員会」が設立され、分野を問わず、子育てや地域外との交流などの場としての活用が試みられています。

また、市においては林業大学の検討をはじめ、大学連携を通じた活用などを実施し、他方、地域においては住民の方々の手によるイベントや清掃活動などが行われ、施設の活用を通じた地域活力の創出に取り組んでいます。

【これまでの経過】

平成 25 年 3 月	閉校
6 月	「旧二川小学校活用検討委員会」設立
平成 28 年 2 月	検討委員会において救護施設「高槻温心寮」視察（大阪府高槻市） 検討委員会において救護施設「かつらぎ園」視察（和歌山市園部）
5 月	地元実行委員会がイベント「二川 1 day Café」を実施
6 月	「旧二川小学校活用委員会」設立
8 月	地域の子育て支援活動団体「へじっこクラブ」が 1 日活動
10 月	活用委員会による和歌山大学学生との清掃活動、 公民館サークルの詩吟サークル、ウクレレサークル・絵画サークルの活動
平成 29 年 1 月	大学連携による(オーストラリア)ニューサウスウェールズ大学との交流、 活用委員会による和生との交流
3 月	活用委員会による育児サークルのリユースパーティー
7 月	「旧二川小学校活用基本計画策定委員会」設立

6 活用に向けた地域の意向

1) アンケート調査結果による意向

アンケート調査は、基本計画策定のための基礎資料として、地域住民の意向把握を目的に基本計画策定委員会が実施しました（平成 29 年 10 月）。中辺路町内の全世帯（1,277 世帯）に配布した結果、305 件の回答（回収率：23.8%）がありました。

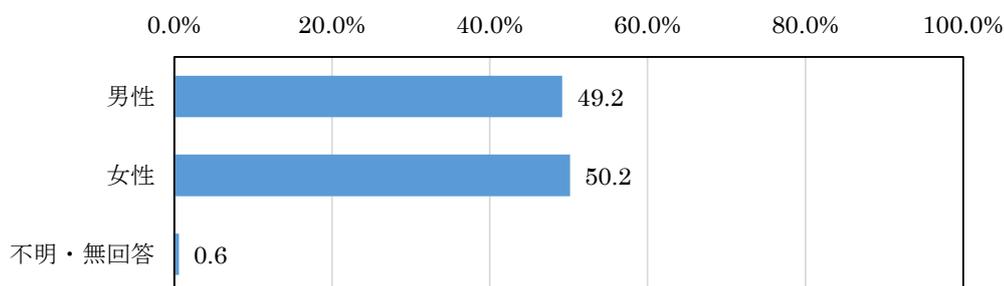
以下では、主なアンケート調査結果について見ることにします。

【アンケート結果の概要】

- ・地域の魅力は、「自然が豊か」が最も多く、次いで「世界遺産「熊野古道」がある」
- ・地域活性化に必要なことは、「地域の資源や魅力を活かした産業振興」が最も多く、次いで「企業誘致」、「地域の文化や祭りを保存継承」
- ・旧二川小学校の利活用すべきの有無については、「思う」が大半であり、具体的な取組への参加意欲は、「取組内容によっては協力したい」が半数以上
- ・活用方法は、「福祉関係施設」が最も多く、次いで「宿泊施設」、「地域内の人々の交流の場」
- ・運営主体は、「地域（地元）と民間事業者双方が運営」が半数
- ・地域活性化への取組への参加意欲は、「取組内容によっては行動する」が最も多く、次いで「行動したいが難しい」

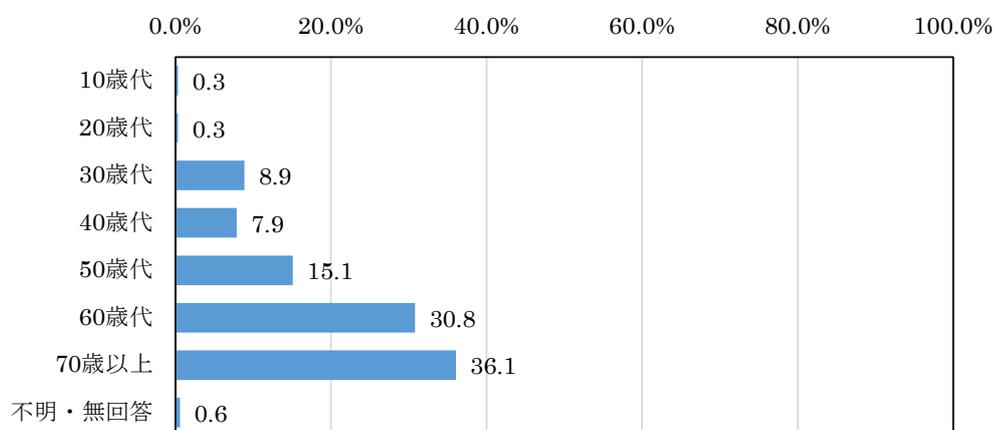
(注) 割合の合計は、四捨五入の関係上 100.0%にならないことがある。また、複数回答方式の質問の場合も、割合を算出する分母としては回答者数をとったため、回答の合計は 100%を超える場合がある。

(1) あなたの性別は。



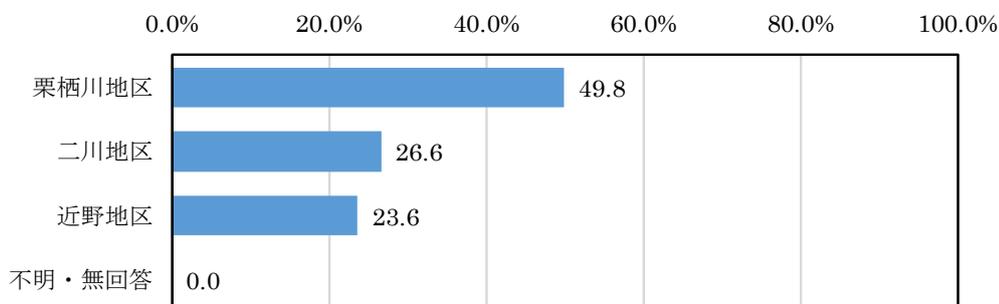
・「男性」が49.2%、「女性」が50.2%、「不明・無回答」が0.6%となっています。

(2) あなたの年齢は。



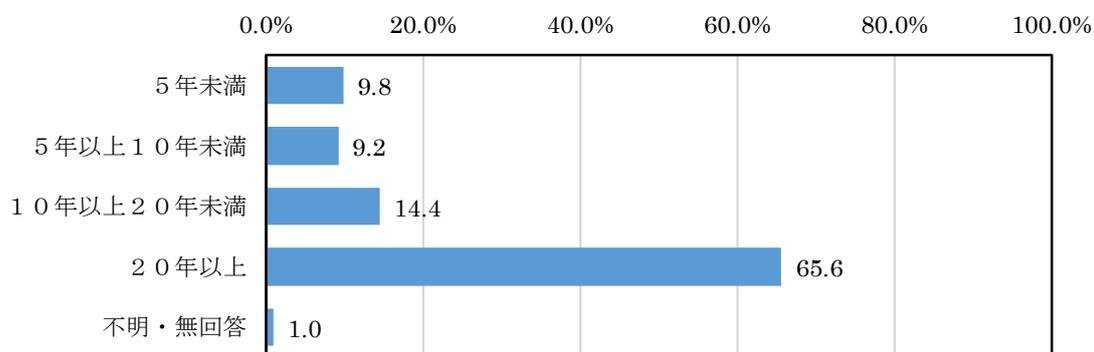
・「10歳代」と「20歳代」が0.3%、「30歳代」が8.9%、「40歳代」が7.9%、「50歳代」が15.1%、「60歳代」が30.8%、「70歳以上」が36.1%、「不明・無回答」が0.6%となっています。

(3) お住まいはどちらですか。



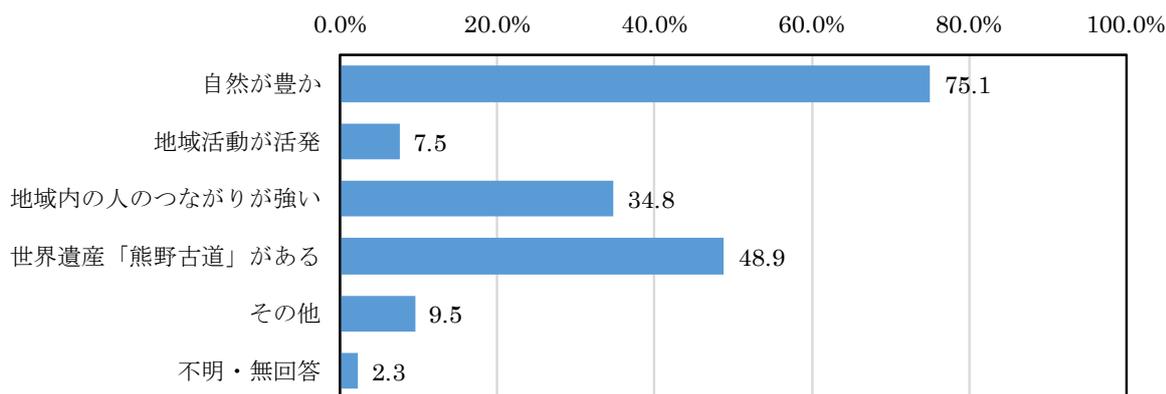
・「栗栖川地区」が49.8%、「二川地区」が26.6%、「近野地区」が23.6%となっています。

(4) 現在のお住まいに住んで何年になりますか。



・「20年以上」が65.6%で最も多く、次いで「10年以上20年未満」が14.4%、「5年未満」が9.8%と続いています。

(5) あなたのお住まいの地区の魅力なところは何ですか。【当てはまるものすべてに○】



【クロス集計】

	合計	自然が豊か	地域活動が活発	地域内の人のつながりが強い	世界遺産「熊野古道」がある	その他	不明
全体	305 件	75.1	7.5	34.8	48.9	9.5	2.3
栗栖川地区	152 件	73.0	3.9	36.2	34.9	11.2	2.6
二川地区	81 件	77.8	11.1	32.1	39.5	8.6	3.7
近野地区	72 件	76.4	11.1	34.7	88.9	6.9	0.0

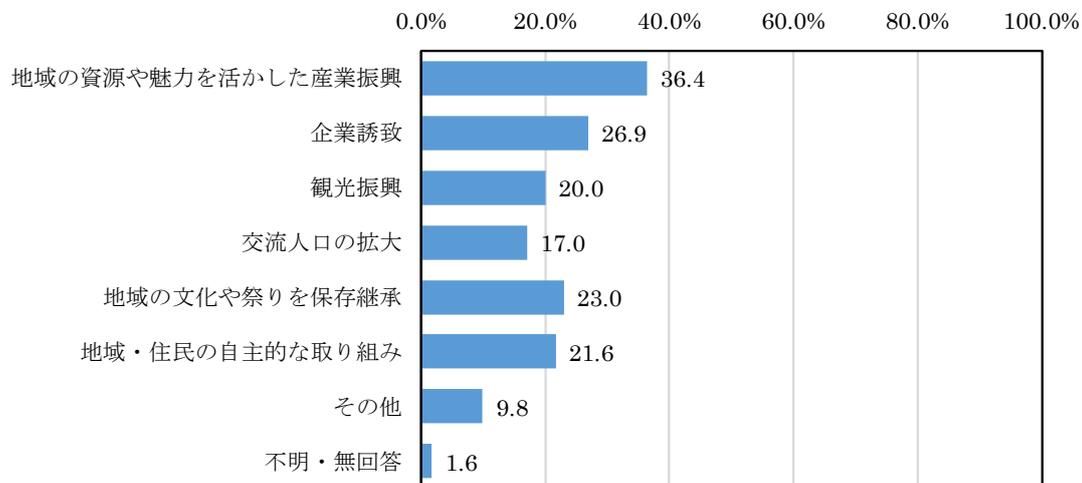
単位：%

・「自然が豊か」が75.1%で最も多く、次いで「世界遺産「熊野古道」がある」が48.9%、「地域内の人のつながりが強い」が34.8%と続いています。

・全体では、「自然が豊か」が最も多くなっていますが、地区別で見ると、近野地区では、「世界遺産「熊野古道」がある」が最も多くなっています。

(6) 中辺路町の活性化のために、最も必要なことは何だと思えますか。

【当てはまるものすべてに○】



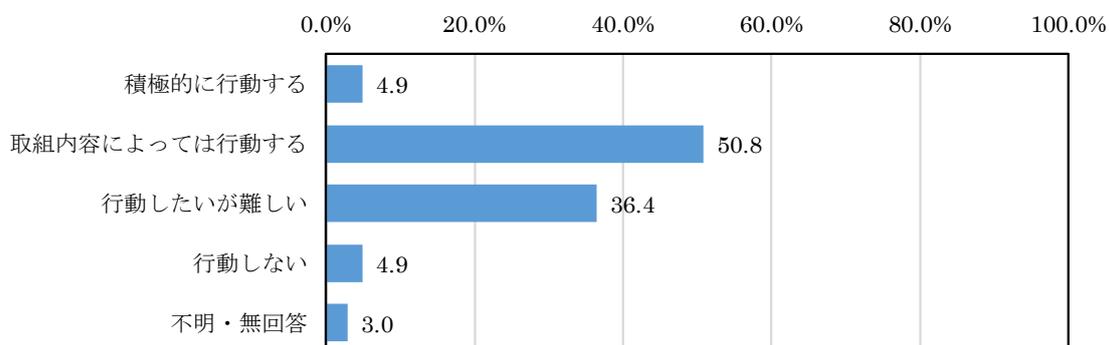
【クロス集計】

単位：%

	合計	地域の資源や魅力を活かした産業振興	企業誘致	観光振興	交流人口の拡大	地域の文化や祭りを保存継承	地域・住民の自主的な取り組み	その他	不明
全体	305 件	36.4	26.9	20.0	17.0	23.0	21.6	9.8	1.6
男性	150 件	36.7	23.3	18.0	17.3	14.0	17.3	10.0	1.3
女性	153 件	35.9	30.7	22.2	17.0	31.4	26.1	9.8	2.0
10歳代	1 件	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	1 件	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	27 件	22.2	7.4	25.9	11.1	29.6	29.6	22.2	0.0
40歳代	24 件	33.3	29.2	29.2	16.7	25.0	12.5	16.7	0.0
50歳代	46 件	37.0	39.1	21.7	10.9	13.0	26.1	10.9	2.2
60歳代	94 件	41.5	31.9	19.1	17.0	23.4	20.2	6.4	1.1
70歳以上	110 件	35.5	22.7	17.3	21.8	23.6	21.8	8.2	2.7
栗栖川地区	152 件	33.6	32.9	17.8	16.4	19.7	18.4	11.8	1.3
二川地区	81 件	45.7	23.5	17.3	21.0	24.7	27.2	9.9	3.7
近野地区	72 件	31.9	18.1	27.8	13.9	27.8	22.2	5.6	0.0

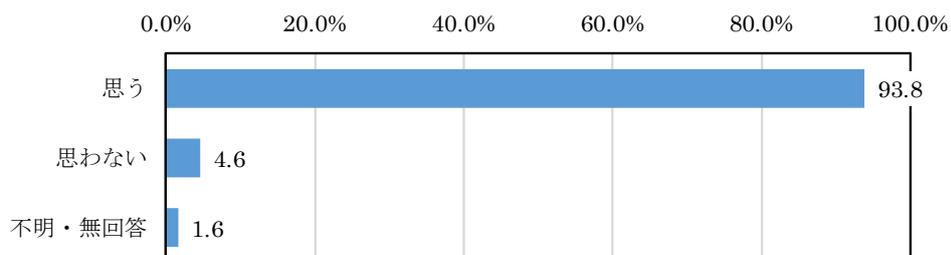
- ・「地域の資源や魅力を活かした産業振興」が36.4%で最も多く、次いで「企業誘致」が26.9%、「地域の文化や祭りを保存継承」が23.0%と続いています。
- ・全体では、「地域の資源や魅力を生かした産業振興」が最も多くなっており、地区別では二川地区がその傾向が強くなっています。また、性別で見ると、女性は産業振興に加え、「地域の文化や祭りを保存継承」、「地域・住民の自主的な取り組み」も重視しています。若い年齢層も同様の傾向があります。

(7) 中辺路町の活性化のために自ら行動しますか。



・「取組内容によっては行動する」が 50.8%で最も多く、次いで「行動したいが難しい」が 36.4%、「積極的に行動する」と「行動しない」がともに 4.9%と続いています。

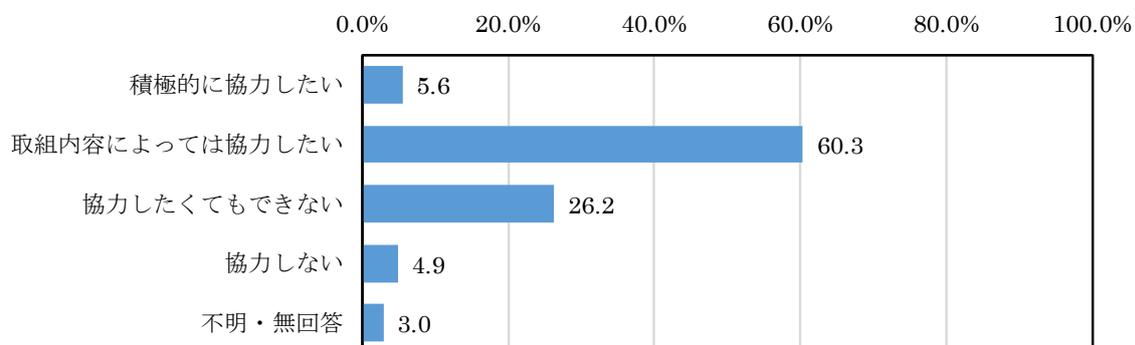
(8) 旧二川小学校跡地を活用すべきと思いますか。



・「思う」が 93.8%、「思わない」が 4.6%となっています。

以下では、もし旧二川小学校を活用するとした場合についての考えについて

(9) 活用するとなった場合に、あなたは協力しますか？



・「取組内容によっては協力したい」が 60.3%、「協力したくてもできない」が 26.2%、「積極的に協力したい」が 5.6%、「協力しない」が 4.9%となっています。

【クロス集計】

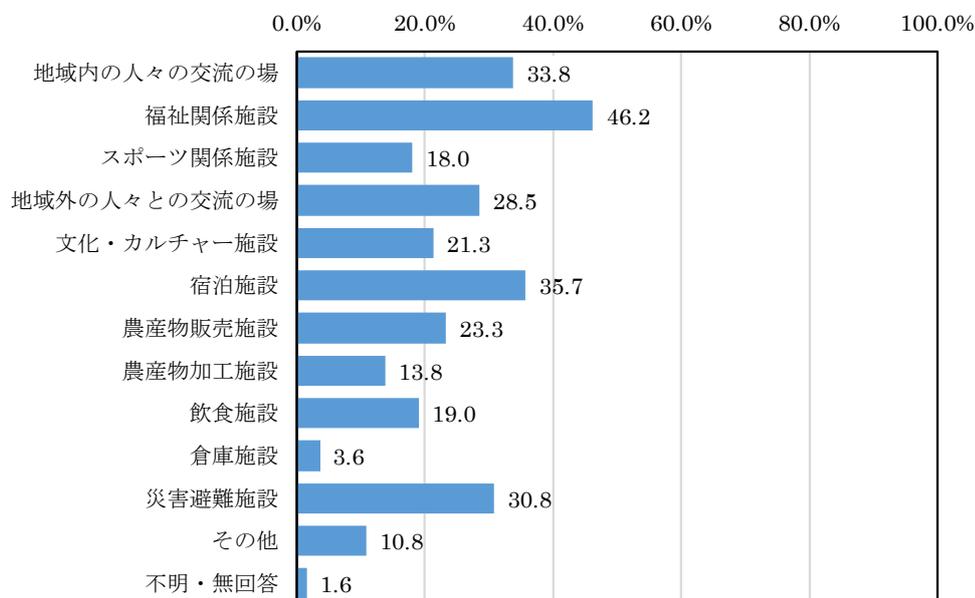
単位：％

	合計	積極的に協力したい	取組内容によっては協力したい	協力したくてもできない	協力しない	不明
全体	305 件	5.6	60.3	26.2	4.9	3.0
10歳代	1 件	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
20歳代	1 件	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	27 件	11.1	77.8	0.0	11.1	0.0
40歳代	24 件	4.2	66.7	4.2	16.7	8.3
50歳代	46 件	4.3	76.1	10.9	4.3	4.3
60歳代	94 件	6.4	67.0	23.4	3.2	0.0
70歳以上	110 件	4.5	42.7	46.4	2.7	3.6
栗栖川地区	152 件	2.6	67.1	22.4	2.6	5.3
二川地区	81 件	11.1	53.1	32.1	2.5	1.2
近野地区	72 件	5.6	54.2	27.8	12.5	0.0

- ・「取組内容によっては協力したい」が60.3%で最も多く、次いで「協力したくてもできない」が26.2%、「積極的に協力したい」が5.6%と続いています。
- ・全体では、「取組内容によっては協力したい」が最も多く、年代で見ると比較的若い層が、地区別で見ると二川地区が、その傾向が強くなっています。

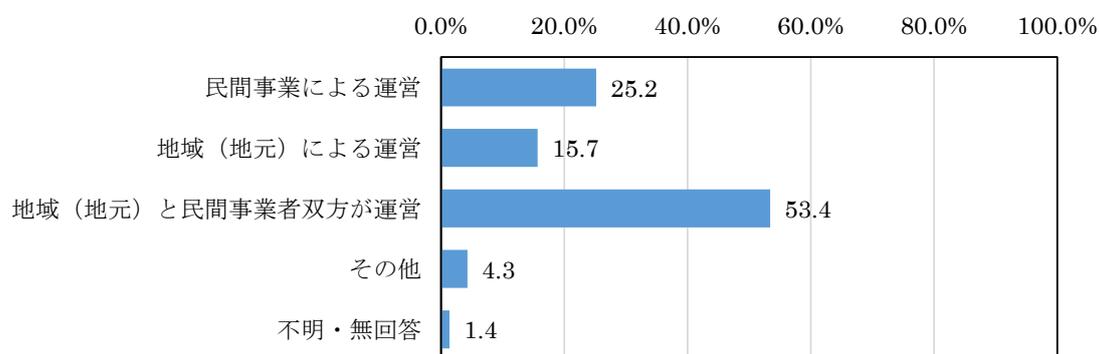
(10) どのような種類の施設として活用すればいいと思いますか。

【当てはまるものすべてに○】



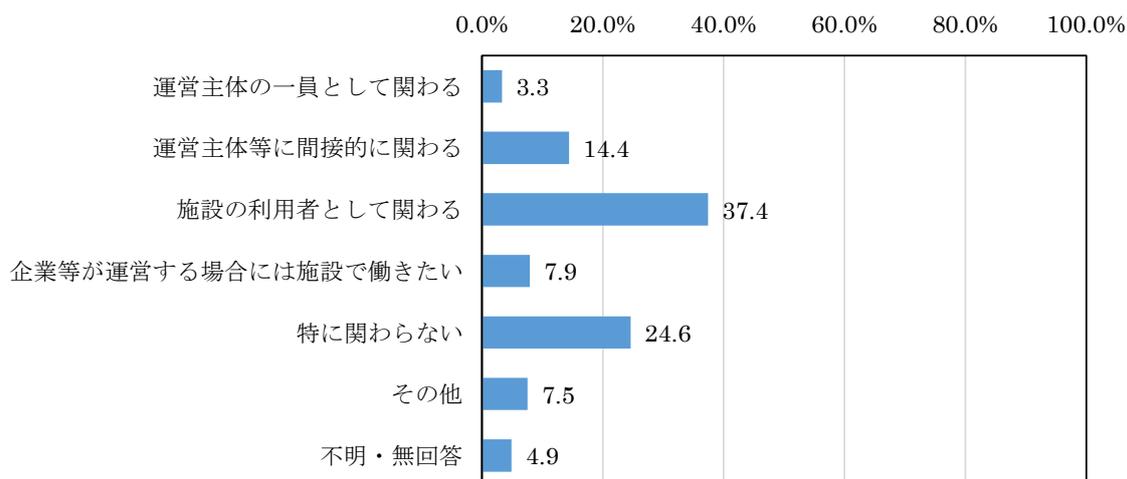
- ・「福祉関係施設」が46.2%で最も多く、次いで「宿泊施設」が35.7%、「地域内の人々の交流の場」が33.8%と続いています。

(11) どのような手法（運営主体）が良いと考えますか。



・「地域（地元）と民間事業者双方が運営」が 53.4%で最も多く、次いで「民間事業による運営」が 25.2%、「地域（地元）による運営」が 15.7%と続いています。

(12) 活用する際に、どのように関わりたいですか



・「施設の利用者として関わる」が 37.4%で最も多く、次いで「特に関わらない」が 24.6%、「運営主体等に間接的に関わる」が 14.4%と続いている。

2) ワークショップによる意向

ワークショップは、アンケート調査では把握できない具体的な活用方法を探ることを目的として、地区住民と和歌山大学農山村再生ゼミナールの学生が参加し、実施しました（平成29年10月と12月の2回）。第1回目には、活用のアイデアを出し合い、第2回目には、前回出したアイデアに優先順位をつけ、実現性の高い項目を抽出しました。

これまでこのようなワークショップを実施したことがなく、今後も定期的を開催したいとの声も多数聞かれました。

【グループA 具体的な活用（案）】

①教育や子育て支援

地域内の子育て世代が利用できる保育施設や学童保育

地域外の子どもが利用するような施設（例えば、林間学習用の施設やキャンプ場）

②宿泊施設

熊野古道の観光客が宿泊できる施設

校舎の一部を宿泊施設に改装

③雇用創出の場

企業誘致、IT関連企業やCSR企業などから声かけ

地域資源を活かした産業創出



【グループB 具体的な活用（案）】

①飲食できる施設

常設店とイベント利用の両方ができるスペースを確保

屋台村のような利用や地域住民が利用する宴会スペースとして利用

②カルチャースペース

これまで試験的に実施してきた公民館活動などを実施して、利用実績を積み重ねる
英会話教室や総合型スポーツ施設などとして利用

③イベント施設

演劇場や映画場、1日カフェ、花火大会、プラネタリウムなどのイベント

雑巾がけレースや地域の地形を活かしたイベント



7 活用基本方針

『地域づくりに資する交流拠点の創出』

アンケート調査の結果を見ると、旧二川小学校施設を活用したいと「思う」といった意見が大半であり、取組への参加意欲は、「取組内容によっては協力したい」が半数以上となっています。そして、その活用の具体的なものとしては、福祉関係施設、宿泊施設、地域内の交流の場、災害避難施設が多くなっています。

また、ワークショップにおいては、具体的な活用方法として、「教育や子育て支援」、「カルチャースペース」、「宿泊施設」、「飲食できる施設」、「イベント施設」などの意見が出されています。

これらの状況や、これまで試みられてきた活用内容などを踏まえると、旧二川小学校には、地域住民の交流の場や、地域外の人々との交流の場が望まれていることが伺えます。

そのため、旧二川小学校の活用に当たっては、田辺市総合計画に定める“人々が集い交流する機会の確保”を進めるため、地域の特性を活かした活動や交流につながる、「地域づくりに資する交流拠点の創出」を基本的な方針とします。

1) 基本目標

(1) 地域交流やコミュニティ強化の取組

近年多くの地域では高齢化や過疎化によってコミュニティ機能の低下が進んでいます。しかしながら、地域活性化にとって地域コミュニティの果たす役割は大きく、そして住民間の交流は地域コミュニティの形成に不可欠となっています。

アンケートやワークショップで意見の多かった活用方法である高齢者の生きがいがづくりや子育て支援などの活動に対して、地域のシンボリックな建物であった学校を活用することで地域交流を促し、地域コミュニティの強化と地域づくりの推進を図ります。

(注)「地域コミュニティ」とは、小学校区程度の範囲の「地域住民どうしのつながり」や「近所つながり」を意味し、地域活性化の取組においては、地域への愛着や地域を良くしたいという想いを持って、自らが考え、ルールをつくる地域コミュニティの力が重要とされています。

(2) 地域外との交流拠点づくり

アンケート調査において、地域活性化に必要なこととして「地域の資源や魅力を活かした産業振興」が最も多くなっていますが、地域外との交流がもたらす効果として、地域住民では気付かない地域資源の発見や、ビジネス機会の創出が考えられます。

また、地域外からの来訪という点に関して、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されて以降、観光客数は一定の推移を保っており、そのうち外国人観光客は大幅な伸びを示している中、当地域においてはその受入に対応できる宿泊施設が充足していない状況があります。

このため、活用の運営主体として「地域と民間事業者双方が運営」という意見がアンケート調査においても半数を占めていることも踏まえ、民間事業による宿泊施設の整備を目標として地域外交流の拠点づくりの推進を図ります。



(注) 都市住民の農山村への関心が高まる中で、都市農村交流を通して活性化を目指す地域もあり、都市との様々な交流・連携・協働の取組を通じて互いの活動を高めていくことを求め、必ずしも定住人口を増やすことを目的としない交流活動も盛んに行われています。そうした活動の効果として、イベントをはじめ、農家民泊、農家レストランなどへの事業展開へとつながっている例も見られています。

2) 活用に向けた手順

活用に向けては、関連する法規制に対応するとともに、「田辺市公共施設等総合管理計画」(平成29年3月)によって公共施設の配置の適正化・適量化及び管理運営の最適化を目指していることから、当該方針との整合を保つ必要もあります。当面は、市において引き続き保有し、施設の状況などを理解の上で利活用を希望する団体などに対して、一時使用許可により利用していただくことで、施設の活用を進めます。

なお、台風や地震などの災害時には、市民の安心・安全を確保することを目的に、施設の耐震性などから避難施設として指定している点も、今後の活用の検討に当たっては留意する必要があります。

また、民間事業者などの活用によって地域の活性化など地域全体の利益に適うと認められる場合は、金融機関とも連携しながら、企業などへの売却や貸付などの方策を検討します。この場合においても、利活用する民間事業者に対しては、周辺環境への配慮や地域活動への貢献など、地域の取組と歩調を合わせつつ事業化を図ることを求めていくこととします。

学校は、教育施設としてだけでなく、身近なコミュニティ活動の場として利用されてきたことから地域住民の愛着も強く、活用に向けては可能な限り地域との協議の下、スケジュール管理や貸出についてのルール作りを行うとともに、民間事業導入に当たっては、関係機関や市関係部署との調整を図り、公募要領などの検討を進めていきます。